生稲晃子外務大臣政務官、ようこそお越し下さいました。そしてご来賓の皆様、こんにちは！

私は文協会長の石川レナトでございます。この度の、生稲外務大臣政務官のご来伯に対し、日系社会を代表して、心より歓迎の意を表します。

日伯両国と両国民間の友好と貿易関係を、強固な基盤の上に築くことを目的として、1895 年 11 月 5 日にフランスのパリで日伯修好通商航海条約が締結されてから 130 周年を記念する本年 2025 年を、「日本ブラジル友好交流年」とすることを、昨年の５月、ルラ大統領と当時の岸田総理によって発出された共同声明の中で発表されましたが、今回の現石破政権を代表される生稲外務大臣政務官のブラジルご訪問は、正に、その幕開けを象徴するものであります。

さて、ブラジルへの日本人移民の歴史が 117 年目を迎える今日、日系社会の人口は 270 万人に達し、ブラジル社会において、重要かつ尊敬される模範的存在となっております。

ここで注目すべきは、我々ブラジル日系人口は、ブラジル総人口からみれば、わずか 1.3%程度にしかすぎないにもかかわらず、経済的には、国内総生産において 5%以上の貢献をしていると言うことです。その存在感は顕著であり、これは、日本人の移民とその子孫が、多岐にわたる分野で誠意を尽くし、努力してきた成果だと自負しております。

私たちは、この歴史的な時代において、日本人移民とその子孫が、130 年前の同条約で定められた目標を十分に達成しただけでなく、ブラジル社会を構成する各国移民との長期的な友好関係の構築と継続に向けた、確固たる基盤さえも築いてきたと確信しています。

ブラジルの日系人はここに至るまで、移民先駆者たちが日本から持ち込んだ「協同」「誠実」「忍耐」「敬意」「学び」「親切」「責任」「感謝」といった倫理的価値観を継承し、それらをもとに数々の困難に打ち勝ってまいりました。そしてこれらの価値観は、ブラジル日系社会の青年たちが自ら進んで、「今でも受け継がれている日本の精神」をテーマに調査した上で「現在のブラジル日系人の持つ８つの価値観」として、定義されるに至りました。

一方で、1990 年代以降、ブラジルの日系人が日本へ移住する動きが加速しました。その結果、現在、日本には 21 万人以上のブラジル人が居住しており、在日ブラジル人コミュニティとしては世界で 3 番目に大きな規模となっております。

まだ形成されて 35 年といった歴史の浅い在日のブラジル日系人社会も、我々日本人移民やその子孫がブラジルで辿った道を顧みながら、日本に於いては日

本の文化や習慣を受け入れ、大学などの高度な教育機関を卒業し、活動分野を多様化させながら日本の社会に溶け込み、日本の発展に大いに貢献する存在となることを期待しております。

結局のところ、ルラ大統領と岸田前総理が、そして昨年リオでのG20 サミットに出席された石破現総理が強調されたように、二国間関係において人間的な側面の重要性を認識することが必要不可欠です。特に、政府、議会、民間組織の代表者を含む交流は、二国間関係に具体的な進展をもたらし、その推進に重要な役割を果たしています。

ところで、私ども文協は本年 12 月 17 日で創立 70 周年を迎えますが、ブラジルにおいては日本文化の保存と普及、日本においてはブラジル文化の発信に尽力してまいりました。

当協会の組織体は、直接運営に携わる理事会の他に、28 人の全国の地方理事を含めて構成されており、それらの地方理事を通じて、ブラジル全土に存在する約 400 の日系団体のうち、おおよそ 300 の団体との関係・交流を維持しております。

なお、国際的には、北米および中南米諸国の日系団体との交流にも力を入れております。

日本においては、毎年東京で開催される海外日系人大会に多くのブラジル日系人青年とともに、継続的に参加しております。特に過去 3 年間において、文協の若手理事たちと協力して、在日のブラジル人コミュニティとの交流にも力を入れて参りました。東京、浜松、名古屋のブラジル大使館および総領事館の協力を得てイベントを開催するなどして、日本社会への融合を支援するとともに、日本におけるブラジル文化の普及にも努めております。

最後になりますが、生稲政務官の今後の更なるご活躍および、ご家族の皆様、あわせてここにお集りの皆様のご健康とご多幸、そして 2025 年が素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げ、私の挨拶とさせて頂きます。皆様どうもありがとうございました。